

令和7年度下半期 指定管理者管理運営状況シート

●施設の概要

施設名	岩野田児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市粟野東1丁目95番地		
指定管理者名	社会福祉法人 中部学院福祉会		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日まで		
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input checked="" type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	16,825,000円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建 ◇敷地面積:1,095.03㎡ ◇延床面積:532.42㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、集会室兼図書学習室、図工室、おもちゃ図書館、事務室兼静養室、駐車場		

●利用状況

		R7 下半期	R7 上半期	R6 下半期	R6 上半期	R5 下半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	6,546	8,216	6,793	7,406	6,401
	移動児童館利用者数	917	884	526	379	349
各室稼働状況	移動児童館実施回数(単位:回)	※19(17)	※22(15)	※12(10)	※15(15)	※14(14)
	開館日数(単位:日)	151	156	151	154	151

※実施回数(施設未設置地区実施回数)

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①・⑤ 計画通り実施。事業については、新規事業の実施により、事業計画書記載の実施予定日から一部変更し、実施している。 ② 所長(常勤職員、児童厚生員)、主任(常勤職員、体育指導員・児童厚生員)、非常勤職員4名(※2名が児童厚生員)。 ③ 児童センターだより「わくわく」を毎月約3,000枚発行(※近隣の3小学校全児童、全職員に配付。近隣の4幼稚園、2保育園全園児、全職員に配付。岩野田北・岩野田・常磐地区全自治会員宅へ回覧。近隣の3公民館、岐阜市北保健センター、JA ぎふ岩野田支店、生活介護事業所アートフィールド、コンビニエンスストア等に配付、施設内配架)。ホームページへも掲載。指定管理者の広報誌にも児童センターでの行事の様子を掲載。 ④ 児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。また、半期に1度、利用者アンケートを実施、詳細な実態を把握後、課題解決に努めている。アンケート結果と対応を、館内廊下2か所に掲示。
自主事業 提案事業		
施設管理	①施設設備の保守点検の実施 ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	① 適切に実施。 ② 館内清掃を毎朝、全職員で遂行。開館中は、利用者に使用済の玩具を回収箱に入れてもらい、職員が定期的に回収箱を確認、破損等を点検しながら使用された玩具を消毒、利用者が使用できる場所に戻す。オゾン式保管庫も活用。各部屋の出入り口のドアノブ、トイレ便座、トイレスリッパ、洗面台等も、定期的に消毒。閉館前には、回収箱内の使用された玩具を、破損等を点検しながら消毒、利用者が使用できる場所に戻す。運動用具についても、破損等を点検しながら消毒。週2回は、就労促進事業清掃班による館内清掃。トイレスリッパについては、月2回、洗浄、消毒。年3回床のワックスがけ・エアコン清掃・ガラス磨き等を委託

		<p>業者に依頼、徹底清掃。新型コロナウイルス、インフルエンザやRSウイルス感染症、A型溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、感染性胃腸炎、突発性発疹等の感染対策として、上記消毒の徹底、換気、職員・施設利用者の手洗い・手指消毒等、感染防止策を徹底している。</p> <p>③ 経費縮減の必要性について全職員で共通理解し、日々勤務する中で、日常業務の一つ一つについて「経費縮減につながる工夫はできないか」「大きな縮減はできなくても、小さな縮減の積み上げが大切」という視点で見直しを進めている。児童用玩具の児童センター職員による自作、玩具・筆記具等の寄付の受け入れ、事務用品・活動用品等の一括管理と適正在庫管理、こまめな室温・照明の調節、廃材、新聞・チラシ、裏紙等の活用など、全職員で取り組んでいる。備品購入・委託事業等は法人の経営する他施設と一括することで経費の節減を図っている。</p> <p>④ 毎朝・夕、施設内外の点検を実施。玩具については、消毒時や片付け時に1日複数回点検。破損がある場合は、おもちゃ病院の方に修理を依頼。屋外遊具の定期点検(年2回)実施。</p>
施設修繕	<p>下記の観点からの修繕実施状況</p> <p>①迅速・適切な修繕の実施</p> <p>②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備</p>	<p>① 児童センターの屋内・外環境について、安全・安心・利用しやすさ等の視点で見直し、日々改善を進めている。毎日の点検時に発見した箇所については、速やかに職員の手で修繕し、業者対応が必要な箇所については市担当課に連絡、相談、指定管理者(法人本部)とも相談し方針を決め速やかに対応している。</p> <p>② 簡易な修繕については、児童センター職員で対応。必要に応じ、指定管理者(法人本部)にも連絡、相談し、迅速・適切に対応している。</p>
危機管理 法令遵守	<p>①個人情報の保護</p> <p>②非常時の対応策</p> <p>③関係法令の遵守</p>	<p>①～③ 適切に実施。</p> <p>年度当初、全職員で、各種マニュアル、関係法令等について、内容・対応を確認、共通理解している。安全・安心・利用しやすさ等の視点で、日々の業務を全職員で見直し、随時改善を加えている。改善内容については、スタッフインフォメーションファイル等に記録し、全職員に周知することで、事故・苦情等の防止に活かしている。</p>

●利用者評価

<p>利用者アンケートの実施状況及び実施結果</p>	<p><保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート></p> <p>【期間】 令和7年 12月 20日 ~ 2月 28日</p> <p>【回答者数】 108人</p> <p>【校区】 岩野田北: 43人 岩野田: 20人 常磐: 15人 長良西: 3人 その他市内: 15人 その他市外: 8人 無回答: 1人</p> <p>【年齢】 10代: 0% 20代: 9% 30代: 63% 40代: 10% 50代以上: 18%</p> <p>【評価】</p> <table border="0"> <tr> <td>(あいさつ)</td> <td>満足: 86%</td> <td>ほぼ満足: 8%</td> <td>普通: 6%</td> <td>やや不満: 0%</td> <td>不満: 0%</td> </tr> <tr> <td>(言葉づかい)</td> <td>満足: 86%</td> <td>ほぼ満足: 8%</td> <td>普通: 6%</td> <td>やや不満: 0%</td> <td>不満: 0%</td> </tr> <tr> <td>(利用者対応)</td> <td>満足: 83%</td> <td>ほぼ満足: 9%</td> <td>普通: 6%</td> <td>やや不満: 0%</td> <td>不満: 0%</td> </tr> <tr> <td>(利用しやすさ)</td> <td>満足: 64%</td> <td>ほぼ満足: 24%</td> <td>普通: 9%</td> <td>やや不満: 3%</td> <td>不満: 0%</td> </tr> <tr> <td>(整理整頓)</td> <td>満足: 76%</td> <td>ほぼ満足: 18%</td> <td>普通: 6%</td> <td>やや不満: 0%</td> <td>不満: 0%</td> </tr> <tr> <td>(清潔感)</td> <td>満足: 73%</td> <td>ほぼ満足: 18%</td> <td>普通: 9%</td> <td>やや不満: 0%</td> <td>不満: 0%</td> </tr> <tr> <td>(換気)</td> <td>満足: 75%</td> <td>ほぼ満足: 17%</td> <td>普通: 8%</td> <td>やや不満: 0%</td> <td>不満: 0%</td> </tr> </table> <p><小・中・高校生用アンケート></p> <p>【期間】 令和7年 12月 20日 ~ 令和8年 2月 28日</p> <p>【回答者数】 104人</p> <p>【学年】 小学: 1年 17人 2年 12人 3年 11人 4年 27人 5年 10人 6年 16人 中学: 1年 6人 2年 4人 3年 0人 高校: 1年 0人 2年 0人 3年 0人 無回答: 1人</p> <p>【学校名】 岩野田北小 62人 岩野田小 24人 岩野田中 10人 常盤小 3人 その他市内 3人 その他市外 1人 無回答 1人</p>	(あいさつ)	満足: 86%	ほぼ満足: 8%	普通: 6%	やや不満: 0%	不満: 0%	(言葉づかい)	満足: 86%	ほぼ満足: 8%	普通: 6%	やや不満: 0%	不満: 0%	(利用者対応)	満足: 83%	ほぼ満足: 9%	普通: 6%	やや不満: 0%	不満: 0%	(利用しやすさ)	満足: 64%	ほぼ満足: 24%	普通: 9%	やや不満: 3%	不満: 0%	(整理整頓)	満足: 76%	ほぼ満足: 18%	普通: 6%	やや不満: 0%	不満: 0%	(清潔感)	満足: 73%	ほぼ満足: 18%	普通: 9%	やや不満: 0%	不満: 0%	(換気)	満足: 75%	ほぼ満足: 17%	普通: 8%	やや不満: 0%	不満: 0%
(あいさつ)	満足: 86%	ほぼ満足: 8%	普通: 6%	やや不満: 0%	不満: 0%																																						
(言葉づかい)	満足: 86%	ほぼ満足: 8%	普通: 6%	やや不満: 0%	不満: 0%																																						
(利用者対応)	満足: 83%	ほぼ満足: 9%	普通: 6%	やや不満: 0%	不満: 0%																																						
(利用しやすさ)	満足: 64%	ほぼ満足: 24%	普通: 9%	やや不満: 3%	不満: 0%																																						
(整理整頓)	満足: 76%	ほぼ満足: 18%	普通: 6%	やや不満: 0%	不満: 0%																																						
(清潔感)	満足: 73%	ほぼ満足: 18%	普通: 9%	やや不満: 0%	不満: 0%																																						
(換気)	満足: 75%	ほぼ満足: 17%	普通: 8%	やや不満: 0%	不満: 0%																																						
<p>利用者からの要望・苦情と対処・改善</p>	<p>・山県市の児童館の対応がよすぎて、比較してしまうと…。(ex.オムツ替えや授乳中、上の子を見ていてくれるなど)他の児童館より職員さんが事務室の中において外には出てこない印象。</p> <p>⇒岩野田児童センターの近隣にある児童館(山県市 高富児童館・こどもげんきはうす)に、実践されている利用者対応についてお話を伺いました。当センターでも、実施可能な内容については順次取り入れていきたいと考えております。岩野田児童センターでは、通常は平日に3名、学校休業日には2名の職員が勤務しています。前記の2児童館には、当センターよりも常時数名多くの職員が配置されているため、同様の利用者対応を当センターで行うことは難しい状況です。お一人で複数のお子様を同伴されている場合で、お子様がトイレを利用されるなど、他のお子様の見守りが難しい際には、短時間であれば職員がお手伝いすることができます。必要な際は、どうぞお気軽に児童センター職員へお声掛けください。よろしく願いいたします。</p> <p>・駐車場の位置、広さが広いとよい。</p> <p>⇒駐車スペースにつきまして、ご不便をおかけしており申し訳ありません。現在、駐車スペースの不足が予測される行事開催日については近隣施設の駐車場をご利用いただけるように、他施設の責任者の方への依頼、連携を進めております。駐車スペースでお困りの際は、児童センター職員にお尋ねください。当該日に利用できる他施設の駐車場をご案内させていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>・授乳室の場所がやや使いづらい。</p>																																										

	<p>⇒現在、授乳室の改装工事の予定はありません。ご不便をおかけいたしますが、ご理解、ご協力をお願いします。また、次回ご来館の際には、授乳室の使いづら点についてセンター職員へお知らせください。いただいた内容は岐阜市の担当課へ共有し、改装の要望としてお伝えしたいと考えております。よろしくお願いいたします。</p> <p>・注意のためとは思いますが、はり紙が多く威圧感を少し感じます。</p> <p>⇒児童センターは、18歳未満のすべての児童が利用できる施設であり、乳幼児から小・中・高校生までが一緒に利用しています。そのため、安全・安心の確保の観点から、必要に応じて注意喚起の掲示物を館内に掲示しております。いただいたご意見を踏まえ、当該掲示物の必要性について全職員で検討・精査した結果、掲示物の枚数を削減いたしました。よろしくお願いいたします。</p>
--	---

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	①平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	S	S	S
		②情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表 ・広範で適切な情報提供・広報活動の実施	S	S	S
		区分評価				
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	③既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	S	S	S
		④利用者ニーズ、苦情などの把握方法、対応方策及びサービスの質を確保するための体制	・利用者のニーズ、苦情の把握 ・利用者のニーズ、苦情、クレームへの着実な対応・運営への反映	S	S	S
		⑤利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施 ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑥利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑦施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・過不足ない適正な人数配置、無理のない職員体制	S	S	S
		区分評価				
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	⑧指定管理経費の妥当性	・収支計画の妥当性及び適正な予算執行	A	A	A
		⑨管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)	S	S	S
		区分評価				
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	⑩組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体力増進指導に関し知識技能を有する者)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	S	S
		⑪スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・職員の連携体制、職場環境の整備	S	S	S
		⑫スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	S	S	S
		⑬リスクへの対応方策(利用者の安全確保策、防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価				
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	⑭地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	S	S	S
		⑮地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	S	S	S
		区分評価				

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

<p>今期の取組み に対する評価</p>	<p>【公平性・透明性】①</p> <p>○センター運営においては、利用者の思いや意見を把握することが重要であることから、2025年12月から2026年2月の3か月間にわたり、アンケート調査を実施した。調査に先立ち、目標回答数として「小学生以上の児童100名以上」「幼児・小学生の同伴者100名以上」を設定した。調査期間中は、入館受付時にすべての来館者に対して丁寧にアンケートの趣旨を説明し、協力を依頼した。その結果、ほぼすべての来館者にご理解・ご賛同いただき、快くご協力いただくことができた(回答者数:児童104名、保護者108名)。なお、設問内容の理解に不安が見られる児童に対しては、センター職員が寄り添いながら、内容をわかりやすく説明し、回答の記入を支援した。また、アンケート回収時には、多くの保護者の方々からセンター運営に対するご理解や励ましのお言葉を頂戴し、職員一同、大きな励みとなった。</p> <p>○職員の「あいさつ」については94パーセント、「言葉づかい」については94パーセント、「利用者対応」については92パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただいた。「丁寧です。」「どの方も優しく接してくれた。」「親切に対応していただいています。」「職員さんは皆さん穏やかな話し方をされるので安心感がある。」「いつも笑顔で対応してくださるので、嬉しい気持ちになります。ありがとうございます。」「いつも温かく声を掛けてくださりありがとうございます。」「職員皆さん、明るく元気で良いです。」「いつも心良く、素敵なスタッフで嬉しいです。」「いつも丁寧に对应してくださってありがとうございます。」「遊戯室に音楽をかけていただいているので楽しいです。」「楽しい企画、時間をありがとうございます。」「クラブは、人数もちょうどよくて、友達もでき、いつも楽しく参加させてもらっています。今後も楽しい遊びを期待しています。ありがとうございます。」「クラブでは、体を使って遊べたり、先生方の笑顔で親子共々元気をもらえたりして、楽しく参加させて頂けるので、いつも楽しく帰る事ができています。ありがとうございます。」「といった言葉で、センター職員の対応の「よさ」を具体的に評価もしていただいた。</p> <p>○施設の「利用しやすさ」については88パーセント、「整理・整頓」については94パーセント、「清潔感」については91パーセント、「換気」については92パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただいた。「絵本がたくさんあって良いです。」「きれいに整頓されていた。」「食事の机もアルコールで拭いたり、鉛筆なども消毒されており良いと思った。」「換気がしっかりされている。」「とても利用しやすいです。ありがとうございます。」「子どもがマイペースで遊べてありがたいです。いつもありがとうございます。」「施設も常にきれいにされていて良い。」「ゆっくりと遊ぶことができました。」「人生ゲームがすごく整備されていてすごい。」「といった言葉で、センターの「よさ」を具体的に評価もしていただいた。一方、「駐車場が空いているか心配。」「駐車場がせまいので車をとめにくい。」「駐車場が一方方向しか入れない。」「という理由で、3名の方から「やや不満」という評価もいただいている。いただいた評価や、意見・要望については、アンケート結果のまとめに、施設としての対応とその理由を明示し、施設内に掲示、公開するとともに、今後も利用者に対して真摯に対応するよう、職員間で共通理解、意思統一を行った。</p> <p>○来館者の利用受付時や退館時を、個別に関わることができる(コミュニケーションできる)好機ととらえ、幼児親子や小中高生、同伴者に必ず声を掛け、関係づくりに努めた。小中高生とは、相談内容については他言しないことを約束しながら、気軽に相談できる雰囲気づくりを大切にして関わり、共感的理解と支援、相談児童の居場所づくり、信頼関係づくりに努めた。</p> <p>○年度当初に、「子どもたちには多くの遊びに取り組むことで、遊びの楽しさ、仲間と活動することの楽しさを知ってほしい。」という願いを全職員で共有した。「センター利用者」に個々の思いで様々な遊びを楽しめる時間を保障する」という意図で設定した遊戯室の利用ルール「いろいろあそびタイム」が定着し、「ディアポロ」や「皿まわし」等をセンター職員が児童を誘って一緒に楽しんだり、「〇〇で遊ぼう」というイベントを企画し定期的(週1回)に開催したりもすることで、多くの遊びの楽しさが児童の中に広がり、様々な遊びを「好きな遊び」「やってほしい遊び」に回答する児童が増えている。</p> <p>○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。</p> <p>○岩野田児童センターの運営委員会は、地域の関係機関・団体の代表者20名と、児童センター職員5名の計25名で構成されている。今年度は、8月22日(金曜日)に開催した。</p> <p>《運営委員会次第》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 運営委員・児童センター職員の紹介、委嘱状交付 3. 運営委員長・副委員長の選出 4. 2024年度 岩野田児童センターの運営状況について 5. 2025年度 岩野田児童センターの運営方針・事業計画について 6. 意見交流 7. 閉会 <p>○日頃から小中学校や母親クラブ等、地域の関係機関・団体との関係づくりに努め、情報交流を密にしてきたことで、岩野田児童センターの運営状況の説明に時間を要さず、その後の意見交流に十分な時間をとることができた。児童センターでこれまで行ってきた子育て支援や新たに始めた事業等について、一定の評価をいただくとともに、「学校と児童センターが連携を密にし、協力して子どもたちの指導、支援にあたること」や「地域の関係機関との連携をさらに進め、センター行事の充実を図ること」など、センター運営、センター支援に関わる貴重な提案もいただくことができた。</p>
	<p>【公平性・透明性】②</p> <p>○「利用者アンケートの結果・まとめ」を児童センター玄関近くの廊下及び2階廊下の2箇所に掲示し、「アンケート集計結果」と「児童センターとしての回答」の周知に努めている。</p> <p>○アンケート結果・まとめには、集計結果とともに、利用者からいただいた意見・要望に対する回答をわかりやすく、具体的に明示した。いただいた貴重な意見・要望については、全職員で真摯に受け止め、実現可能な案件についてはできる限り早く利用者の期待に応えられるように対応策を検討し、実施している。</p>

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したのものについては、センターからのメッセージ(回答)として、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。

○児童センターだより「わくわく」を、毎月、約3,000枚配付し、センター利用の促進を図っている。

《配付先》

- ・エリア内3小学校全児童、全職員に配付
- ・エリア内3公民館に配付、館内配架
- ・エリア内3幼稚園、2保育園及び近隣1幼稚園(※エリア内在住園児多数在籍)の全園児、全職員への配付
- ・(岐阜市)北保健センター、(岐阜市)畜産センター公園に配付、施設内配架
- ・山県市図書館・美術館・歴史民俗資料館、文化の里古田沼欽記念館(※岐阜市内在住者の利用多数)に配付、館内配架
- ・エリア内3地区全自治会員に回覧
- ・JAぎふ岩野田支店に配付、施設内配架
- ・生活介護事業所アートフィールドに配付、施設内配架
- ・岩野田地区在住の方がオーナーをされている近隣のコンビニエンスストア2店舗に配付、施設内配架
- ・(岐阜市)北部コミュニティセンター、長良西公民館に配付、施設内配架
- ・ゆりかご成育センター、ピッコロ療育センターに配付、施設内配架

○岩野田児童センターのホームページを活用し、「施設紹介」「児童センターだより『わくわく』の公開」「ブログによる実施行事の様子紹介」「行事の中止・延期の連絡」「気象警報・強風注意報等発令時の閉館の連絡」等を行っている。
○昨年度から新たに「ライドン・スクール(メールによる情報配信)」を導入しており、今年度も幼児クラブ参加者にメール受信登録を丁寧に依頼し、システムの活用を進めている。ライドン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、安全にできるようになり、センター運営の効率化、利用者の利便性の向上等につながっている。

【効果性】③

○児童センター内の利用案内掲示や依頼掲示、活動紹介掲示等を、利用者に「見ていただけるか」「理解していただけるか」、「活動に興味をもっていただけるか」「活動に参加したいと思っていただけるか」等の視点で随時評価し、更新している。壁面装飾についても、季節を感じるものや「読み聞かせ応援コーナー」にある絵本の絵を取り入れるなど、随時、工夫・更新している。また、様々な外部機関から掲示、配架を依頼されるポスターやパンフレット等についても、分類・整理して掲示、配架することで、多くの方に活用していただいている。センターを利用する小中学生や、利用者の同伴者の方からも、「わかりやすい。」「見やすい。」「すっきりした。」といった感想をいただいている。

○センター利用に関わるルールの理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い平日の火曜日から金曜日については、職員を3名配置し、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

また、児童理解や支援の手立てについても、関係図書を事務室に購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員数名が講師となり、OJT形式で職員研修も行うなど、対応を進めている。日々行った児童への支援については、記録ノートに記載し、職員間で共有、累積し、事後支援に活かしている。

○岩野田児童センターには現在、常勤2名・非常勤4名の計6名が在籍している。6名のうち4名は、児童センター仕様書に定められた「児童厚生員」の要件を満たしている。また、幼稚園教諭、保育士、小・中・高・養護学校教諭などの免許を有する職員が3名おり、いずれも幼稚園・保育園や小中学校での豊富な実務経験を持つ。そのうち2名は管理職経験も有し、専門性と指導力の両面でセンターを支えている。さらに、6名のうち1名は、小学校で校務員として20年以上勤務した経験を持つ職員である。施設管理や安全面に精通しており、「安全・安心」の視点から環境の評価・改善・整備を継続している。また、今年1月から、小中学校で約40年勤務し、教育相談や生徒指導経験も豊富な非常勤職員1名が新たに勤務している。以前から勤務している小中学校や幼稚園・保育園での勤務経験が長く管理職経験もある2名の職員(所長・主任)に今年度新たに勤務した2名の職員を加え、この4名を中心に、全職員で、今年度も児童センターの環境や事務処理、利用者対応等、センターのハード、ソフト両面を例外なく新鮮な目で見直し、随時改善を加えている。上記の「センター内案内掲示や依頼掲示、壁面装飾等の一新」「ポスターやパンフレット等の分類、整理」「利用者への支援に必要な職員配置」「利用者支援に必要な専門性に関わる図書整備や職員研修(OJT)」「職員間で情報共有するための支援記録ノート」、他にも、「遊戯室や図書学習室(集会室)など、各部屋の使用ルールの見直し(安全・利用しやすさ・活動機会の公平性から)」「玄関や廊下、おもちゃ図書館、幼児室や図書学習室(集会室)、事務室等の環境整備(安全・利用しやすさから)」「多目的ルームでの事務用品、活動用品等の一括管理(業務の効率化、経費縮減から)」「見直し・改善内容を職員間で情報共有、徹底するためのスタッフインフォメーションファイル」等々、日々、実践を進めている。

○今年度も、幼児クラブの内容を、子どもの発達・成長につながる「専門的支援」と「継続的支援」の二つの視点で評価し、下記のように実施している。

▷チューリップクラブ(0歳児):幼稚園・保育園での勤務経験が長い岩野田児童センター職員が、昨年度、ベビーマッサージの講師資格

格を取得。今年度から担当講師として、上半期・下半期登録制で各5回、ベビーマッサージや親子ふれ合い遊び、絵本の読み聞か

せや簡単な親子ダンス、制作などを実施する。

▷タンポポクラブ(1歳児):実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、運動遊び(上半期3回)とリトミック(上

半年2回・下半期5回)を実施する。さらに、岩野田児童センター職員が講師となって、季節行事等を上・下半期、各5回実施する。

▷ヒマワリクラブ(2歳児以上):実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、リトミック(上半期5回・下半期2

回)と運動遊び(下半年3回)を実施する。さらに、児童センター職員が講師となって、季節行事等を上・下半年、各5回実施する。

▷スマイルクラブ(1歳児以上・移動児童館):実践経験豊かな外部人材や児童センター職員が講師となって、運動遊びやリトミック、季節行事等を上半期・下半年登録制で各10回実施する。

○利用者アンケートにご記入いただいた、「父親と参加できるイベントをまた行ってほしいです。」という要望を受け、父親も参加しやすい内容として、親子で楽しめる造形遊びを取り入れた具体的な講座を毎月企画、実施し、利用者から好評をいただいている。

○小学生クラブを、活動に参加した児童の意見も参考にしながら全職員で評価、検討、改変し、今年度も継続、実施している。

▷将棋クラブ(継続):参加者は、活動時間内に、ペアを替えながらたくさんの対局を行っている。将棋を楽しみながら、よい仲間づくりの場にもなっている。

▷手芸クラブ(継続):かぼちゃのバッグ、フェルトのこびとくん、お正月飾り、お花のリース、ポンポンひな人形などの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。

▷ドローンクラブ(新規):実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半年登録制で、毎月1回、各期6回ずつ実施している。初めにドローンの基本操作を身に付け、その後の練習で、操作技能の向上を目指している。

▷クラフトクラブ(継続):くるくる・キラキラシャボン玉、ゆらゆらボールゲーム、ハンドスピナー、トントン動くキツツキ、ビー玉コロコロゲームなどの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。

▷ミニクラフトクラブ(継続):手作りシール、空気砲ロケット、アクアキーホルダー、ぶんぶんゴマ、缶バッジなどの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。平日の放課後に実施するため、短時間で完成できるように事前に職員で材料を加工し、参加者に提供できるように工夫している。

○今年度9月から、これまで小学生を対象として実施してきた検定種目(けん玉検定・なわとび検定)に、新たに、「イライラ棒チャレンジ」を新種目として設定し、検定を実施している。イライラ棒チャレンジ検定用玩具は、コースを5種類、手持スティックを4種類、児童の実態に合わせて難易度を考慮し、児童センター職員で工夫、検討を重ねて自作している。10月からは、児童が自由に遊べるイライラ棒チャレンジ練習用玩具を2コース自作し、貸し出ししている。児童は遊びを楽しみながら、イライラ棒を攻略する技能とコツを身につけ、チャレンジへの意欲を高めている。

○昨年度9月から始めている小中学生を対象にした遊び体験会「○○で遊ぼう」を今年度も継続し、新たな遊びを取り入れながら、毎週曜日を変えて平日に1回実施している。参加する児童は、バランスゲームやカロム、3目・4目並べなど、体験したことがない新しい遊びに挑戦したり、異学年の児童や普段一緒に遊ばない児童とも一緒に活動したりして、笑顔で、楽しい時間を過ごしている。

○昨年度に導入した「ライデン・スクール(メールによる情報配信システム)」のメール受信登録を、今年度も幼児クラブ参加者に丁寧に依頼し、システムの活用を進めている。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、安全にできるようになり、センター運営の効率化、利用者の利便性の向上等につながっている。

○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更されたが、流行は変わらず続いており、インフルエンザやRSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、感染性胃腸炎、突発性発疹などその他の感染症の流行もみられるため、職員が自身で行う健康チェックや予防対策、利用者対応や消毒作業等について、職員打ち合わせでの情報共有を継続し、実践の徹底を図っている。

○近年、新たに外部機関・団体・個人と連携して企画・実施してきた事業については、内容をさらに充実させ、今年度も継続して実施している。

▷マジック教室
マジックの指導経験が豊富な外部人材に講師を依頼し、小学生を対象として、マジックショーを実施した。目の前で繰り広げられる様々なマジックパフォーマンスに、参加した児童は驚きと笑い、感動があふれる楽しい時間を過ごした。

▷「椎茸」の収穫で食育体験
就労継続支援A型ひなたぼっこ園の協力を得て、幼児と保護者を対象に活動を実施した。たくさんの椎茸が大きくなった菌床から、親子で椎茸を収穫し、その感触を味わいながら楽しく活動に取り組んだ。活動終了後は菌床を自宅へ持ち帰り、親子で温度や湿度の管理を行いながら新たな椎茸を育て、自宅でもたくさんの椎茸を収穫して楽しむことができた。

▷消しゴムハンコ作り
岐阜栗野郵便局の局長に講師を依頼し、小学生以上の児童を対象に実施した。手作りしたハンコは参加者が各自で家に持ち帰り、年賀状に押すなどして活用した。

▷サツマイモの収穫体験
JAぎふ岩野田支店からいただいた苗を、地域の方からお借りしている畑に植え、児童センターを利用する子どもたちも関わりながら育てたサツマイモの収穫を、幼児・小学生親子を対象として実施した。

▷JAコラボ収穫祭
JAぎふ岩野田支店から提案いただき、JAぎふ岩野田支店で開催された収穫祭に参加した。参加者は、JAぎふや地域の農業関係団体の方などを講師に餅つきを親子で体験したり、準備していただいたきな粉餅やあんこ餅、豚汁を親子で味わったりして、楽しい時間を過ごした。児童センターからの参加者以外の参加も多く、地域に住む多くの方との貴重な交流の場ともなった。

▷親子でパン作り教室
パン作りの指導経験が豊富な外部人材に講師を依頼し、幼児・小学生親子を対象として、山県市高富コミュニティセンター中央公民

館の調理室を使用してパン作り教室を実施した。参加者は親子で、「ピザパン」と「クリスマスカップケーキ」作りを楽しんだ。

▷アートフィールド(生活介護事業所)の皆さんとの交流(V・わくわく隊)
アートフィールドを訪問し、施設利用者の方と一緒に、ちぎり絵に取り組んだり、作業用具の整理をお手伝いしたりして、交流活動を
楽しんだ。

▷子ども食堂「Onelぱくキッチン」のお手伝い(V・わくわく隊)
子ども食堂「Onelぱくキッチン」を訪問し、食材を切ったり炒めたりして、カレー作りを手伝った。近隣地域在住の小学生親子や高齢者など、地域に住む多くの方との貴重な交流の場ともなった。

以前から実施しているその他の行事についても、同様に内容をさらに充実させ、今年度も継続して実施している。日頃から近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画できないか情報収集に努め、交流を深めてきたことで、多くの方の理解と協力を得て、様々な行事を開催することができている。

○小学生クラブを、活動に参加した児童の意見も参考にしながら全職員で評価、検討、改変し、今年度も継続、実施している。

▷将棋クラブ(継続):参加者は、活動時間内に、ペアを替えながらたくさんの方との対局を行っている。将棋を楽しみながら、よい仲間づくりの場にもなっている。

▷手芸クラブ(継続):かぼちゃのバッグ、フェルトのこびとくん、お正月飾り、お花のリース、ポンポンひな人形などの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。

▷ドローンクラブ(新規):実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、毎月1回、各期6回ずつ実施している。
初めにドローンの基本操作を身に付け、その後の練習で、操作技能の向上を目指している。

▷クラフトクラブ(継続):くるくる・キラキラシャボン玉、ゆらゆらボールゲーム、ハンドスピナー、トントン動くキツツキ、ビー玉コロコロゲームなどの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。

▷ミニクラフトクラブ(継続):手作りシール、空気砲ロケット、アクアキーホルダー、ぶんぶんゴマ、缶バッジなどの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。平日の放課後に実施するため、短時間で完成できるように事前に職員で材料を加工し、参加者に提供できるよう工夫している。

○今年度9月から、これまで小学生を対象として実施してきた検定種目(けん玉検定・なわとび検定)に、新たに、「イライラ棒チャレンジ」を新種目として設定し、検定を実施している。イライラ棒チャレンジ検定用玩具は、コースを5種類、手持ちスティックを4種類、児童の実態に合わせて難易度を考慮し、児童センター職員で工夫、検討を重ねて自作している。10月からは、児童が自由に遊べるイライラ棒チャレンジ練習用玩具を2コース自作し、貸し出している。児童は遊びを楽しみながら、イライラ棒を攻略する技能とコツを身につけ、チャレンジへの意欲を高めている。

○昨年度9月から始めている小中学生を対象にした遊び体験会「○○で遊ぼう」を今年度も継続し、新たな遊びを取り入れながら、毎週曜日を変えて平日に1回実施している。参加する児童は、バランスゲームやカロム、3目・4目並べなど、体験したことがない新しい遊びに挑戦したり、異学年の児童や普段一緒に遊ばない児童とも一緒に活動したりして、笑顔で、楽しい時間を過ごしている。

○以前から勤務している幼稚園・保育園での勤務経験が長い職員が中心となり、幼児クラブとは別に幼児親子を対象として下記のような事業を企画し、内容を工夫・充実させて実施した。

▷カラービニール袋を使ったハロウィン衣装の制作
カラービニール袋に頭と両手を出す穴をあけ、カラーガムテープを使って襟を作ったり、パンプキンやキャンディ、おばけなどの飾りを貼ったりして、親子で素敵なハロウィン衣装づくりを楽しんだ。親子で一緒に様々な制作工程を楽しんだ。

▷クリスマスリースの制作
赤と緑の折り紙で作ったパーツを8枚つなげてリースの土台となる輪を作り、その上に丸や星の形のシールを貼ったり、絵を描いたりして仕上げた。また、事前に準備しておいたクリスマスツリーの形の台紙にも丸や星の形のシールを貼り、絵を描き、最後にツリーの先端にリボンを付けて完成させた。親子で一緒にクリスマスリース作りの様々な制作工程を楽しんだ。

▷お正月飾りの制作
お花紙をつなげて縄のようにねじったものを2色作り、その2本を組み合わせるとねじりリースの土台となる輪を作った。できあがった輪に、色画用紙で作った松や椿の花、扇子、水引などを飾り付け、最後に馬の台紙に幼児の顔写真を貼ったものを飾って、午年のお正月リースを完成させた。親子で一緒に様々な制作工程を楽しんだ。

▷紙粘土を使った手形飾りの制作
紙粘土で消防車やキャラクターなどの形に、手形を押す台を工夫して作り、手形を押した後、全体を色付けて手形飾りを制作した。親子で一緒に様々な制作工程を楽しんだ。

▷おひなさま飾りの制作
色画用紙で作ったパーツを男雛や女雛の形に組み合わせると台紙に貼り、男雛や女雛の衣装に綿棒や指を使って模様を描いて制作した。親子で一緒に様々な制作工程を楽しんだ。

▷あおむしのリースの制作
色画用紙で作ったパーツを組み合わせるとあおむしの顔を制作し、紙皿の台紙に貼り付けた。さらに、お花紙を丸めて顔の横に並べて貼ることで体を表現し、紙皿の下半分には丸いシールを貼ってリースとして仕上げた。親子で一緒に様々な制作工程を楽しんだ。

▷赤ちゃん向け読み聞かせ

幼児親子を対象に、読み聞かせ「赤ちゃん絵本を楽しもう」を毎月平日に1回実施している。絵本の読み聞かせだけでなく、手袋シアターやスケッチブックシアター、ふれ合い遊びなども取り入れながら、参加者が親子で楽しい時間を過ごせるよう内容を工夫して実践を進めている。

○遊戯室全体を使うドッジボールやバドミントン、鬼ごっこなどをする時には、その時間、安全面への配慮から遊戯室を他の遊びで使うことができなくなるため、遊戯室の利用について活動時間を区切った事前申込制になっている。特にドッジボールについては、遊戯室という限られたスペースで安全に、楽しく遊ぶために、子どもたちと一緒に話し合い、コートに入る定員を10名とし、やりたい子が10名を超える時には交替でコートに入るようルールを決めて活動している。遊戯室全体を使い多人数で行う遊びについては、必ず子どもたちが一緒に遊ぶ仲間の中でリーダーを決め、リーダーを中心に安全に楽しむためのルールを意識し、互いに声を掛け合って活動している。

○児童センターでは、ボランティア活動を行う「V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)」を位置づけている。毎月発行するセンターだよりで参加者を募り、参加者とともに職員も活動し、翌月の活動内容を一緒に考える機会も設けながら、ボランティア活動の対象(※地域を中心に)の広がりや、子どもたちのボランティアに関する意識の醸成を図っている。12月にはクリスマス会の企画・運営を担当し、会の計画や準備、当日の司会進行など、意欲的に活動し、参加者とともに楽しい時を過ごした。

○センター職員に児童が話す、「僕、〇〇、得意だよ。」「私、〇〇、できるようになったよ。」という児童の言葉を受けとめ、児童の得意を、児童の自己有用感の向上や、児童相互の交流・仲間づくりに活かすため、けん玉や皿回し、フラフープやルービックキューブなどが得意な児童を「〇〇先生」として児童センター内で位置づけた。「〇〇先生名札」を作成して児童の「できる」を認め、名札を誰もが見ることができるよう2階廊下壁面に掛けておくことで、「〇〇先生」と「遊びを上手にしたい児童」との交流の機会が生じやすい環境づくりに努めている。

○毎月、「なわとび検定日」と「けん玉検定日」を設け、子どもたちが継続して目標達成に挑戦できる機会を設定している。検定カードには、子どもたちが「目標→努力→達成(できる自分を発見)」のサイクルで練習し、技能を向上できる(自己有用感を実感できる)ように、達成する課題と級を明示し、名人に到達した児童には認定証を作成し事務室前廊下に掲示することで努力を認め、位置づけている。また、9月から新たに、「イライラ棒チャレンジ」を新種目として設定し、検定を実施している。児童センター職員自作のイライラ棒チャレンジコースは5種類、手持スティックは4種類あり、児童の実態に合うよう20段階の難易度を設定して検定を実施している。

【効果性】④

○来館者の利用受付時や退館時を、個別に関わることができる(コミュニケーションできる)好機ととらえ、幼児親子や小中高生、同伴者に必ず声を掛け、関係づくりに努めた。小中高生とは、相談内容については他言しないことを約束しながら、気軽に相談できる雰囲気づくりを大切にして関わり、共感的理解と支援、相談児童の居場所づくり、信頼関係づくりに努めた。

○下半期に実施した利用者アンケートでは、職員の「あいさつ」については94パーセント、「言葉づかい」については94パーセント、「利用者対応」については92パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただいた。「丁寧です。」「どの方も優しく接してくれた。」「親切に対応していただいています。」「職員さんは皆さん穏やかな話し方をされるので安心感がある。」「いつも笑顔で対応してくださるので、嬉しい気持ちになります。ありがとうございます。」「いつも温かく声を掛けてくださりありがとうございます。」「職員皆さん、明るく元気で良いです。」「いつも心良く、素敵なスタッフで嬉しいです。」「いつも丁寧に対応してくださってありがとうございます。」「遊戯室に音楽をかけていただいているので楽しいです。」「楽しい企画、時間をありがとうございます。」「クラブは、人数もちょうどよくて、友達もでき、いつも楽しく参加させてもらっています。今後も楽しい遊びを期待しています。ありがとうございます。」「クラブでは、体を使って遊べたり、先生方の笑顔で親子共々元気をもらえたりして、楽しく参加させて頂けるので、いつも楽しく帰る事ができています。ありがとうございます。」「といった言葉で、センター職員の対応の「よさ」を具体的に評価もいただいた。

○十分な期間(12月から2月末までの約3か月)をかけてアンケート調査を実施した。事前に、より多くの方の意見を伺いたいというねらいから、「小学生以上の児童100名以上」「幼児・小学生の同伴者100名以上」を目標人数に設定し、入館カード記入時に、すべての来館者に声を掛け、アンケートの趣旨説明を丁寧に行い調査への協力を依頼した。アンケートの設問内容の理解に不安がある児童については、センター職員が寄り添い、質問内容をわかりやすく説明しながら、回答記入を進めた(回答人数⇒児童:104名、保護者:108名)。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。

○下半期に実施した利用者アンケートでは、施設の「利用しやすさ」については88パーセント、「整理・整頓」については94パーセント、「清潔感」については91パーセント、「換気」については92パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただいた。「絵本がたくさんあって良いです。」「きれいに整頓されていた。」「食事の机もアルコールで拭いたり、鉛筆なども消毒されており良いと思った。」「換気がしっかりされている。」「とても利用しやすいです。ありがとうございます。」「子どもがマイペースで遊べてありがたいです。いつもありがとうございます。」「施設も常にきれいにできていて良い。」「ゆっくりと遊ぶことができました。」「人生ゲームがすごく整備されていてすごい。」「といった言葉で、センターの「よさ」を具体的に評価もいただいた。

一方、「駐車場が空いているか心配。」「駐車場がせまいので車をとめにくい。」「駐車場が一方方向しか入れない。」「という理由で、3名の方から「やや不満」という評価もいただいている。いただいた評価や、意見・要望については、アンケート結果のまとめに、施設としての対応とその理由を明示し、施設内に掲示、公開するとともに、今後も利用者に対して真摯に対応するよう、職員間で共通理解、意思統一を行った。

・「駐車場が空いているか心配。」「駐車場がせまいので車をとめにくい。」「駐車場が一方方向しか入れない。」「という意見に対しての対応

⇒駐車スペースにつきまして、ご不便をおかけしており申し訳ありません。現在、駐車スペースの不足が予測される行事開催日については近隣施設の駐車場をご利用いただけるように、他施設の責任者の方への依頼、連携を進めてお

ります。駐車スペースでお困りの際は、児童センター職員にお尋ねください。当該日に利用できる他施設の駐車場をご案内させていただきます。よろしく願いいたします。

○来館された利用者の方に児童センター職員から積極的に声を掛け、関係づくりに努めるとともに、会話する中でそれぞれの思いやニーズを把握し対応することで、信頼関係づくりに努めた。幼児の同伴者の方からいただいた要望をもとに児童センター内に設置した「幼稚園・保育園情報コーナー」については、情報提供園の増加・充実と、利用者の情報活用が進んでいる。また、近隣地域在住の専門家の方の協力を得て設置した「発達・子育て相談」ができる場についても、利用者への周知が進み、活用方法の問い合わせがセンターに届くようになっている。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。

○昨年度から新たに「ライデン・スクール(メールによる情報配信)」を導入しており、今年度も幼児クラブ参加者にメール受信登録を丁寧に依頼し、システムの活用を進めている。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、安全にできるようになり、センター運営の効率化、利用者の利便性の向上等につながっている。

○センター利用に関わるルールを理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い平日の火曜日から金曜日については、職員を3名配置し、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

また、児童理解、支援の手立てについても、関係図書を事務室に購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員数名が講師となり、OJT形式で職員研修を行うなど、対応を進めている。日々行った児童への支援については、記録ノートに記載し、職員間で共有、累積し、事後支援に活かしている。

○児童センターに来館する誰もが、安心して楽しく児童センターを利用できるように、活動できるように、1階遊戯室と2階図書学習室(集会室)の利用ルールを下記のように決め、理由を具体的に示しながら子ども達に分かりやすく丁寧に繰り返し説明し、ルールの徹底を図った。

【遊戯室】

「たくさんの子」が「たくさんの遊び」を遊戯室で楽しめるように、下記の二つの時間を設定し、遊戯室全体を使った遊びを楽しむ「○○○タイム」の後には必ず「いろいろ遊びタイム」を位置づけている。

・いろいろ遊びタイム

⇒「皿回し」や「けん玉」、「フラフープ」や「ディアボロ」など、遊戯室全体を使わない様々な遊びをみんなで楽しむ時間。

・○○○タイム(例. ドッジボールタイム、バドミントンタイム等)

⇒「ドッジボール」や「バドミントン」、「鬼ごっこ」など、遊戯室全体を使った遊びを楽しむ時間。

【図書学習室(集会室)】

利用者全員がやりたい活動に集中できるように、図書学習室(集会室)を可動式の衝立等を利用して、下記の二つの優先スペースに分けている。

・遊び優先スペース ・学習優先スペース

【効果性】⑤

○児童センターから遠い常磐地区の児童の利用を確保するために、魅力ある活動内容を工夫、準備し、毎月2回以上の開催を原則として、移動児童館事業にも力を入れている。

【実施回数】19回(うち未設置地区:17回)

10月⇒常磐地区1回、岩野田北地区1回実施

11月⇒常磐地区3回、市外(山県市高富)2回実施

12月⇒常磐地区3回、岩野田地区1回、市外(山県市高富)1回実施

1月⇒常磐地区2回、岩野田北地区1回実施

2月⇒常磐地区2回

3月⇒常磐地区2回実施

【実施内容】

・親子で幼稚園・保育園見学、活動体験(指導者:幼稚園・保育園職員、児童センター職員)

・小学生ボランティア「V・わくわく隊」(指導者:アートフィールド職員、友愛会職員、児童センター職員)

・収穫祭(指導者:JAぎふ岩野田支店職員、児童センター職員)

・楽しく親子でパン作り教室(指導者:外部講師、児童センター職員)

・運動遊び(指導者:外部講師、児童センター職員)

・リトミック(指導者:外部講師、児童センター職員)

・笑いヨガ(指導者:外部講師、児童センター職員)

・感触遊び、親子ふれ合い遊び(指導者:児童センター職員) 等

○職員のおいさつや言葉づかい、入館受付や利用案内等について、「明るく・こやかに」に、「親切・丁寧」に対応することを全職員で共通理解し、日々実践を継続している。下半期利用者アンケート回答者の92~94パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただき、センター職員の対応のよさを具体的意見でも評価していただいた。

○児童センター内の案内掲示や依頼掲示、活動紹介掲示等を、利用者「見ていただけるか」「理解していただけるか」、「活動に興味をもっていたりか」「活動に参加したいと思っていたりか」等の視点で随時評価し、更新している。壁面装飾についても、季節を感じるものや「読み聞かせ応援コーナー」にある絵本の絵を取り入れるなど、随時、工夫・更新している。また、様々な外部機関から掲示、配架を依頼されるポスターやパンフレット等についても、分類・整理して掲示、配架することで、多くの方に活用していただいている。センターを利用する小中学生や、利用者の同伴者の方からも、「わかりやすい。」「見やすい。」「すっきりした。」といった感想をいただいている。

○昨年度に導入した「ライデン・スクール(メールによる情報配信システム)」のメール受信登録を、今年度も幼児クラブ参加者に丁寧に依頼し、システムの活用を進めている。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの

連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、安全にできるようになり、センター運営の効率化、利用者の利便性の向上等につながっている。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したのについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くに掲示し、利用者にお知らせしている。

○来館者入館時にチャイムが鳴るように機器を設置し、利用者が複数の幼児を連れて幼児親子さんの時など支援を必要とされる場合は、玄関ドアをセンター職員が開け安全でスムーズに入館できるように援助している。退館時にも、同様に玄関ドアの開閉をお手伝いしている。

【効果性】⑥

○児童センターだより「わくわく」を毎月約3,000枚配付し、センター利用の促進を図っている。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。

○児童センターのホームページを作成、活用し、「施設紹介」「児童センターだより『わくわく』の公開」「ブログによる実施行事の様子紹介」等を行っている。

○昨年度に導入したライデン・スクール(メールによる情報配信)を活用して、センターから幼児クラブ参加者に、センター事業の紹介、参加案内を行っている。

○近隣にある児童発達支援施設や放課後等デイサービス施設、生活介護事業所や住宅型有料老人ホーム施設等とも連携を図り、参加いただけそうな行事については個別に声を掛け、利用を勧めている。

児童発達支援…ゆりかご成育センター、ピッコロ療育センター等

放課後等デイサービス…あんじゅ、ゆりかご成育センター、ピッコロ療育センター等

生活介護事業所…アートフィールド等

住宅型有料老人ホーム施設…You & I(ゆうあい)の森いわのただ等

【効果性】⑦

○岩野田児童センターには現在、常勤2名・非常勤4名の計6名が在籍している。6名のうち4名は、児童センター仕様書に定められた「児童厚生員」の要件を満たしている。また、幼稚園教諭、保育士、小・中・高・養護学校教諭などの免許を有する職員が3名おり、いずれも幼稚園・保育園や小中学校での豊富な実務経験を持つ。そのうち2名は管理職経験も有し、専門性と指導力の両面でセンターを支えている。さらに、6名のうち1名は、小学校で校務員として20年以上勤務した経験を持つ職員である。施設管理や安全面に精通しており、「安全・安心」の視点から環境の評価・改善・整備を継続している。6名それぞれが異なる専門性と経験を活かすことで、児童センターにおける子どもたちへの指導・支援体制は、充実したものとなっている。

○センター利用に関わるルールの理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い火曜日から金曜日については、職員配置を3名とし、1・2階各フロア、事務室に1名ずつ職員を置き、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

【効率性】⑧

○岩野田児童センターの収支管理を担う社会福祉法人中部学院福祉会は、岐阜市の民営化第1号の常設保育園を経営しており、毎年、岐阜市の監査、指導を受け、適格に予算を執行している。また、中部学院福祉会の理事会が年4回、評議員会が年2回開催され、その都度、収支や施設運営についての的確な指導、助言もいただいている。

【効率性】⑨

○今年度も、電気料金や燃料費等の高騰による経費圧迫を見据え、児童センターでは、経費削減の必要性について全職員で共通理解し、日々勤務する中で、日常業務の一つ一つについて「経費削減につながる工夫はできないか」「大きな削減はできなくても、小さな削減の積み上げが大切」という視点で見直しを進めている。

《具体的実践例》

・児童(小学生以上)が利用する玩具を児童センター職員で自作することで、経費削減を図っている。

【今年度制作した玩具】

コリントゲーム(5セット)、ゆらゆらボールゲーム(1セット)、ゆらゆらビー玉迷路ゲーム(1セット)、ビー玉送りゲーム(1セット)、

検定用イライラ棒(コース5種類、スティック4種類)、練習用イライラ棒(コース2種類、スティック1種類2本)、

大型迷路ゲーム(1セット)、立体迷路ゲーム(2種類 各2セット)等

・幼児用積み木や布製かるた、絵本や色鉛筆、パネルシアターセットや色画用紙などを近隣住民から寄付いただき、安全に利用できることを確認し玩具として設置したり、読み聞かせや作品作り等に活用したりすることで、利用者へのサービス向上と経費削減を図っている。

・事務室、遊戯室倉庫、おもちゃ図書館倉庫、階段下倉庫、多目的ルームで管理していた各種事務用品、活動用品等を多目的ルームで一括管理し、業務の効率化と適正な在庫管理による経費削減を図っている。

・作品材料として、牛乳パック、ペットボトルキャップ、ペットボトル容器、各種テープ類やラップの芯、各種ペーパー類の空き箱等を捨てずに児童センターで保管したり、職員が自宅から持ち寄ったりして、安心・安全に配慮しながら、センターで行う行事を低コストで実施できるよう、日々対応している。

・紙ベースで配付していた職員のシフト表や各種連絡事項等を、ライデン・スクール(メールによる情報配信)を活用してデータで配信するように変更、ペーパーレス化を進めている。

・紙ベースで配付していた幼児クラブの参加案内を、ライデン・スクール(メールによる情報配信)を活用してデータで配信するように変更、ペーパーレス化を進めている。

・赤ちゃんステーションとして利用者に提供する準備をしているミルクのお湯を、電気ポットではなく、保温時間がなく節電につながる電気ケトルで用意している。
・児童が利用した後、センター屋内・外にある手洗い場の蛇口が完全に閉められていないことがあるため、頻繁に職員が点検・確認し、節水に努めている。
・センター利用者がいない場合は、廊下や各部屋の照明を、外光が差さない側の一部のみ点灯しておくようにし、センター利用者の入館しやすさを損なわない程度に節電に努めている。
・各種行事の企画にあたって、費用負担が軽減できる中部学院福祉会の関係機関や団体との連携をまず検討し、その他の外部機関・団体や近隣地域在住の方との連携についても、できる限り少ない費用負担で協力いただけるよう連携相手との打ち合わせを行っている。

【安定性・安全性】⑩

○現在、児童厚生員4名、体育指導員1名を配置している。

○岩野田児童センターには現在、常勤2名・非常勤4名の計6名が在籍している。6名のうち4名は、児童センター仕様書に定められた「児童厚生員」の要件を満たしている。また、幼稚園教諭、保育士、小・中・高・養護学校教諭などの免許を有する職員が3名おり、いずれも幼稚園・保育園や小中学校での豊富な実務経験を持つ。そのうち2名は管理職経験も有し、専門性と指導力の両面でセンターを支えている。さらに、6名のうち1名は、小学校で校務員として20年以上勤務した経験を持つ職員である。施設管理や安全面に精通しており、「安全・安心」の視点から環境の評価・改善・整備を継続している。6名それぞれが異なる専門性と経験を活かすことで、児童センターにおける子どもたちへの指導・支援体制は、充実したものとなっている。

○センター利用に関わるルールを理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い火曜日から金曜日については、職員配置を3名とし、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

【安定性・安全性】⑪

○岩野田児童センターには現在、常勤2名・非常勤4名の計6名が在籍している。6名のうち4名は、児童センター仕様書に定められた「児童厚生員」の要件を満たしている。また、幼稚園教諭、保育士、小・中・高・養護学校教諭などの免許を有する職員が3名おり、いずれも幼稚園・保育園や小中学校での豊富な実務経験を持つ。そのうち2名は管理職経験も有し、専門性と指導力の両面でセンターを支えている。さらに、6名のうち1名は、小学校で校務員として20年以上勤務した経験を持つ職員である。施設管理や安全面に精通しており、「安全・安心」の視点から環境の評価・改善・整備を継続している。また、今年1月から、小中学校で約40年勤務し、教育相談や生徒指導経験も豊富な非常勤職員1名が新たに勤務している。以前から勤務している小中学校や幼稚園・保育園での勤務経験が長く管理職経験もある2名の職員(所長・主任)に今年度新たに勤務した2名の職員を加え、この4名を中心に、全職員で、今年度も児童センターの環境や事務処理、利用者対応等、センターのハード、ソフト両面を例外なく新鮮な目で見直し、随時改善を加えている。上記の「センター内案内掲示や依頼掲示、壁面装飾等の一新」「ポスターやパンフレット等の分類、整理」「利用者への支援に必要な職員配置」「利用者支援に必要な専門性に関わる図書整備や職員研修(OJT)」「職員間で情報共有するための支援記録ノート」、他にも、「遊戯室や図書学習室(集会室)など、各部屋の使用ルールの見直し(安全・利用しやすさ・活動機会の公平性から)」「玄関や廊下、おもちゃ図書館、幼児室や図書学習室(集会室)、事務室等の環境整備(安全・利用しやすさから)」「多目的ルームでの事務用品、活動用品等の一括管理(業務の効率化、経費縮減から)」「見直し・改善内容を職員間で情報共有、徹底するためのスタッフインフォメーションファイル」等々、日々、実践を進めている。

特に、増加傾向にある発達に課題を抱え、配慮を必要とする児童の理解、支援の手立てについては、関係専門図書を事務室に複数購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員3名が講師となり、日々OJT形式で、職員研修を行うなど、対応を徹底している。日々行った児童への支援については、上記の支援記録ノートに記載、累積し、その後の支援に活かしている。さらに、毎月の勤務日数が少ない非常勤職員が4名在籍し、連携は課題であり、「常勤職員と非常勤職員との連携を密にすること」「支援記録ノートやスタッフインフォメーションファイルへの記載を実践につながるよう理解しやすい内容とすること」等、職員間の日々のコミュニケーションや、コミュニケーションツールを工夫・活用することで、課題改善、職員連携体制の構築、充実を図っている。

○事務室で経年管理していた資料・文書や事務用品・活動用品等を多目的ルームで管理、保管することとし、事務室内のスペース活用の効率化を図っている。

○事務室で使用頻度の高いパソコン3台に大型モニターを設置し、2台のモニター(既存のモニターと大型モニター)を使用した事務処理を可能としている。

○事務室内に置かれている様々な物品の配置を、その「用途」や「使用頻度」、「現在の配置が他の業務に与える影響」等の視点で、再度全職員で確認、検討し、物品を配置する棚等をセンター職員で設計、自作することで、事務室環境の改善・向上を図っている。

【安定性・安全性】⑫

○自己研修やOJTの推進を図るハード、ソフト両面の環境整備

「遊びによる子どもの育成」「子どもの居場所の提供」「配慮を必要とする子どもへの対応」等、児童センターが担う業務と関わる専門図書を事務室に複数購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員が講師となり、日々OJT形式で職員研修を行うなど、対応を徹底している。日々行った児童への支援についても、それぞれ専用の記録ノートに記載、累積、全職員で共有し、その後の支援に活かしている。

○新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に変更されて以降は、これまで控えていた集合形式で行われる研修会についても、業務日程を調整し、積極的に参加している。

《児童センター職員が参加した研修会》

・岐阜聖徳学園大学短期大学部／岐阜保育研究会「保育者のための実践講座」

保育に活かす保健の知識 ～病気やケガの対応など、色々アップロードしませんか？～
職員2名参加
・岐阜市子ども支援課
絵本の読み聞かせ研修会 職員1名参加

【安定性・安全性】⑬

○市の方針にもとづき作成、活用している「非常災害対策計画」を年度当初に見直し、必要な修正を加え、緊急時に対応できるよう職員研修を行い、その内容について全職員で共通理解した。

1. 施設の立地条件
2. 災害に関する情報の入手方法
3. 災害時の連絡先及び通信手段の確認
4. 避難を開始する時期、判断基準
5. 避難場所、避難経路
6. 避難方法
7. 避難誘導の必要な資材
8. 災害時の人員体制
9. 関係機関との連携
10. 防災教育及び訓練の実施

○年度当初、岩野田児童センターの「社会福祉施設避難確保計画」をもとに、緊急時に対応できるよう職員研修を行い、その内容について全職員で共通理解した。

1. 計画の目的
2. 計画の報告
3. 計画の適用範囲
4. 防災体制
5. 情報収集・伝達
6. 避難誘導
7. 避難の確保を図るための施設の整備
8. 防災教育及び訓練の実施
9. 自衛水防組織の業務に関する事項
10. 防災教育及び訓練の年間計画
11. 緊急連絡網
12. 外部機関等の緊急連絡先一覧表
13. 防災体制一覧表
14. 自衛水防組織活動要領
15. 自衛水防組織の編成と任務
16. 自衛水防組織装備品リスト
17. 施設周辺の避難地図

○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更されたが、流行は変わらず続いており、インフルエンザやRSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、感染性胃腸炎、突発性発疹などその他の感染症の流行もみられるため、これまで実施してきた感染症対策を基本に対応を職員で共有、徹底している。特にセンター職員及びセンター利用者の体調確認、手洗い・消毒、換気等、基本的感染対策については確認と働き掛けを徹底して行っている。

○児童センター内外を、「リスク防止」の視点で点検、確認し、事故の未然防止に努めている。新型コロナ等感染防止のための消毒・換気、玩具・運動用具・遊具等の安全点検、コーナークッションの貼付、コンセントカバーの取付、運動用具保管方法の見直し、事故防止のための注意喚起掲示の工夫・設置等、「まだ、すべきことがある」という意識で、全職員で、リスク防止、対応に努めている。

○児童センターの「非常災害対策計画」について、年度当初に職員研修を行い、その内容について全職員で共有した。

○児童センターの「社会福祉施設避難確保計画」について、年度当初に職員研修を行い、その内容について全職員で共有した。

○上記のマニュアルの他、センターで作成済の各種緊急時対応マニュアルについては、事務室内の確認しやすい場所に保管している。また、運動事故対応や新型コロナ等感染対応等については、対応のポイントをまとめたものを、職員がすぐ手に取りやすい場所に置き、職員の自己研修と危機管理に対する意識、対応力の向上を図っている

【貢献性】⑭

○「たからぼこ」「おはなしポケット」「ココのおはなし」「おもちゃ病院」等、地元の諸団体の方に、定期的に活動をしていただいている。各団体の活動予定については、活動日の前月に発行する児童センターだより「わくわく」に掲載し、紹介している。

○児童センターだより「わくわく」を毎月約3,000枚配付し、センター利用の促進を図っている。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。

○近年、新たに外部機関・団体・個人と連携して企画・実施してきた事業については、内容をさらに充実させ、今年度も継続して実施している。詳細は【効果性】③に記載済み。

○岩野田青少年育成市民会議家庭部会から依頼を受け、幼児親子(対象児童年齢:0歳、1歳)を対象にして、「親子ふれ合い遊び」と「読み聞かせ」を行った。また、「ママたちとおしゃべりタイム」にもアドバイザーとして参加した。

○児童センター近隣の児童発達支援施設(ゆりかご成育センター、ピッコロ療育センター等)、放課後等デイサービス施設(あんじゅ、ゆりかご成育センター、ピッコロ療育センター等)と連絡を取り合い、児童センターの利用推進を図っている。

○児童センター近くにあるに住宅型有料老人ホーム施設(You & Iの森 いわのだ)と連絡を取り合い、施設入居者の児童センター行事への参加、児童センター利用者との交流を随時行っている。また、小学生ボランティア(V・わくわく隊)が子ども食堂「Oneぱくキッチン」を訪問し、食材を切ったり炒めたりして、カレー作り等をお手伝いしている。近隣地域在住の小学生親子や高齢者など、地域に住む多くの方との貴重な交流の場ともなっている。

○児童センター近くにあるに生活介護事業所(アートフィールド)と連絡を取り合い、施設利用者(児童センター利用者(V・わくわく隊)との交流を随時行っている。

○中部学院大学短期大学部から下記の実習生を受け入れた。

・スクールソーシャルワーク実習 2名 ・見学実習 15名 ・保育_児童館実習 1名

○中部学院大学短期大学部(幼児教育学科)に学生ボランティアを依頼し、4名の学生にご協力いただいた。

【貢献性】⑮

○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更されたが、流行は変わらず続いており、インフルエンザやRSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、感染性胃腸炎、突発性発疹などその他の感染症の流行もみられるため、地元行事への参加については「参加者の安全・安心」を最優先に、慎重に判断し決定している。今年度は、児童センター近くにあるに住宅型有料老人ホーム施設(You & Iの森 いわのだ)と連絡を取り合い、施設入居者の児童センター行事への参加、児童センター利用者との交流を随時行っている。また、小学生ボランティア(V・わくわく隊)が子ども食堂「Oneぱくキッチン」を訪問し、食材を切ったり炒めたりして、カレー作り等をお手伝いしている。近

	<p>隣地域在住の小学生親子や高齢者など、地域に住む多くの方との貴重な交流の場ともなっている。さらに、児童センター近くにある生活介護事業所(アートフィールド)とも連絡を取り合い、施設利用者と児童センター利用者(V・わくわく隊)との交流を随時行っている。</p> <p>○児童センターだより「わくわく」を毎月約3,000枚配付し、センター利用の促進を図っている。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。</p> <p>○近年、新たに外部機関・団体・個人と連携して企画・実施してきた事業については、内容をさらに充実させ、今年度も継続して実施している。詳細は【効果性】③に記載済み。</p>
<p>前回までの意見を踏まえた取組み状況</p>	<p>○以前から勤務している小中学校や幼稚園・保育園での勤務経験が長く管理職経験もある2名の職員(所長・主任)に今年度新たに勤務した2名の職員を加え、この4名を中心に、全職員で、児童センターの環境や事務処理、利用者対応等、センターのハード、ソフト両面を例外なく新鮮な目で見直し、随時改善を加えている。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○幼児クラブの内容を、子どもの発達・成長につながる「専門的支援」と「継続的支援」の二つの視点で評価、改善し、実施している。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○近年、新たに外部機関・団体・個人と連携して企画・実施してきた事業については、内容をさらに充実させ、継続して実施している。日頃から近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画できないか情報収集に努め、交流を深めてきたことで、多くの方の理解と協力を得て、様々な行事を開催することができている。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○以前から勤務している幼稚園・保育園での勤務経験が長い職員が中心となり、幼児クラブとは別に幼児親子を対象として「ハロウィン衣装の制作」や「クリスマスリースの制作」等、新規事業を企画し、内容を工夫・充実させて実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○小学生クラブを、活動に参加した児童の意見も参考にしながら全職員で評価、検討、改変し、今年度も継続、実施している。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○児童センターから遠い常磐地区の児童の利用を確保するために、魅力ある活動内容を工夫、準備し、毎月2回以上の開催を原則として、移動児童館事業にも力を入れている。詳細は【効果性】⑤に記載済み。</p> <p>○児童センターでは、ボランティア活動を行う「V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)」を位置づけている。毎月発行するセンターだよりで参加者を募り、参加者とともに職員も活動し、翌月の活動内容を一緒に考える機会も設けながら、ボランティア活動の対象(※地域を中心に)の広がりや、子どもたちのボランティアに関する意識の醸成を図っている。12月にはクリスマス会の企画・運営を担当し、会の計画や準備、当日の司会進行など、意欲的に活動し、参加者とともに楽しい時を過ごした。</p>
<p>今後の取組み</p>	<p>○来期も継続して、日々利用者ニーズの把握に努め、児童センター職員の経験を活かしながら新しい活動や行事の企画、運営を推進したい。</p> <p>○来期も継続して近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画できないか情報収集に努め、利用者のニーズに合った行事を企画、開催していきたい。また、既存の連携行事についても参加者の意見を参考に内容の改善、充実を進めたい。地域の様々な人と連携した行事を実施し、ブログ等でも紹介しながら、児童センターとの連携について地域の理解をさらに広めていきたい。</p> <p>○来期も継続して、V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)の活動の充実を図っていきたい。「地域との関わり」を大切に活動を仕組み、V・わくわく隊のメンバーの達成感とボランティア活動への意欲をさらに高めていきたい。</p>

●所管課の意見

○経験が豊富な外部人材や、児童センター職員が講師を務めるなど、子どもにさまざまな体験の提供がされている。

○けん玉や皿回しなどを得意としている子どもを「〇〇先生」と児童館内で位置づけて、その子が先生として他の子どもに遊び方を教えることで、子ども同士の交流・仲間づくりや子どもの自己有用感の向上に努めている。

●指定管理者評価委員会の意見

○「本物志向を体験してもらいたい」という考えのもと、子どもに様々な体験の機会を提供していることは、非常に良い実践をしていると評価できる。